



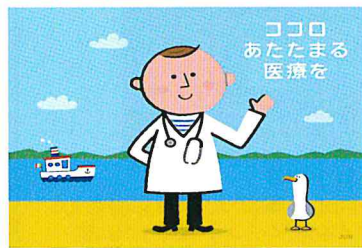
理学療法士
池岡 巧一
Ikeoka Koichi
2017年入社

掲げるのは「救急内科」 安心して暮らし続けられる長門へ

●医療法人 生山会 齋木病院



▲現在の建物は、1969年に開院。一般病床46床、療養病床44床、MRIやCTもあり、24時間体制で救急も受け入れている。



▲イラストレーターに描いてもらった院長のイラスト。病院内のそこかして見ることが出来る。みていて明るい気分になれると評判。

Company profile

明治31年(1898年)、齋木医院を開設、現在は齋木病院として、大学病院とも連携し、救急から終末期まで幅広く地域医療を提供。医療法人となり、昭和55年(1980年)温泉・リハビリも可能な俵山病院を開設、令和2年(2020年)に県北部初の介護医療院「たわらやま介護医療院」として再スタート。何でも相談しやすい身近な病院であり、アートを取り入れたイベントを行うなど、地域を盛り上げている。

理学療法士の池岡さんは、高校時代に、けがで2年近く入院・通院した経験から、この道へ。齋木病院は、救急も受け入れるので、整形以外に脳梗塞や精神的落ち込みの方等も担当する。当直もあるが、基本定時で終了してあり、メリハリがあって日々充実しているという。また「地域に愛される病院」として、長く通う患者さんも多く、医師や看護師などスタッフも長い人が多く、人と人との距離が近い感じが心地よいという。

長門で働くなら
魅力的な職場だと思っ

救急を重視。経営改革にも着手し、有言実行を楽しみむ
長門の救急医療の一角を担ってきた齋木病院。泰彦院長は、内視鏡こそ大切と考え、消化器内科を専門としつつ、長門での救急を担うために様々な症例を積極的に学び、救急指導講習に参加するなど、地道にスキルを磨き、救急に対応している。また、理事長として医療法人の経営にも携わる。現状分析し改革を実行。システム導入による効率化や「チーム」で働く意識の高い人材の採用等を通じて、黒字化を達成。行動し結果も出して、何より楽しそうに語る姿が印象的だった。

our new challenge

ホームページをリニューアル

医療法人生山会として、俵山病院を「たわらやま介護医療院」と「たわらやま診療所」に転換したのをきっかけに、齋木病院含め法人のホームページを作り直した。アクセス数が伸び、実際情報を見て「働きたい」という人も来てくれ、手ごたえを感じている。



院長
齋木泰彦 氏

「謙虚さ」「素直さ」
そして「長門への愛着」
池岡さんに、若い世代へのメッセージを伺った。「都会ほどせかせかしておらず、上司との距離も近く、やりたいことをさせてもらえます。長門の良さを感じ、貢献できる人になってほしいです。」
泰彦院長へは、求める人物像を伺った。「長門に愛着を持ち、素直さ、謙虚さのある人です。仕事では風通しのよさが大切だと思います」とのこと。そして長門への愛着が持てるよう、子どもたちに長門を好きだと思ってもらえる取り組みがしたいとのことだった。